

「風評払拭・リスクコミュニケーション強化戦略」 のフォローアップについて

令和3年4月
環境省



1. 海外に向けた取組

(1) 放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料（英語版）【図1】について

- 環境省HP【図2】に掲載。
<http://www.env.go.jp/en/chemi/rhm/basic-info/index.html>
 - ダイジェスト資料を作成し、分かりやすい解説【図3】を掲載。
<http://www.env.go.jp/en/chemi/rhm/portal/index.html>
 - 在日大使館や在外公館などへ配布。
- 【今後の主な取り組み】
- 統一的な基礎資料（英語版）を最新の情報に改訂していく。



図1

(2) 福島での環境再生事業について

【2020年度の実績】

- 通年 英語版Webで最新情報を提供し、国際社会と情報共有。
<http://josen.env.go.jp/en/>
- 2020年9月 第64回IAEA総会時のサイドイベントへの参加(オンライン)
→福島での環境再生事業、未来志向プロジェクトの説明。
- 2020年12月 日英原子力対話、2021年1月 日仏二国間委員会(ともにオンライン)
→環境再生事業等の最新情報の説明。
- 2021年3月 Waste Management Symposia (オンライン)
→IAEAと開催した環境回復専門家会合の説明と最新情報の共有。

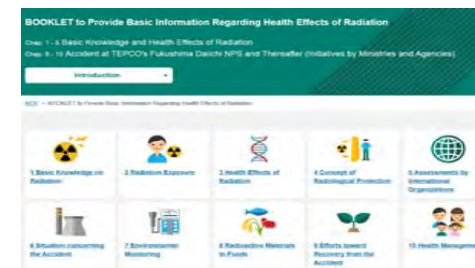


図2

2. 国内での取組

(1) 放射線に係る健康影響に関するリスクコミュニケーションについて

① 相談員等による相談対応の強化

- 放射線リスクコミュニケーション相談員支援センターでの取組を通じて、地元のニーズを的確に把握するとともに、放射線の健康不安を抱える住民を身近で支える放射線相談員や自治体職員等の支援対象者が行う活動を支援。また、これらの支援対象者向けの使いやすい支援ツールを作成し公表。

② 教育現場の外も含めた研修等

- 福島県近隣県の住民及び福島県への来訪を予定している住民の放射線に関する健康不安に対応するため、住民セミナーや車座集会等を開催〔写真1〕。

(2) 放射線の健康影響に関する正確な情報発信について

- 放射線の健康影響に関する情報ポータルサイト〔図4〕をリニューアルし、統一的な基礎資料のダイジェスト資料を掲載。

<http://www.env.go.jp/chemi/rhm/portal/>

- また、ポータルサイトについて、スマートフォンでも見やすいコンテンツ作成し公表。



図4

【今後の主な取り組み】

統一的な基礎資料を最新の情報に改訂していく。

放射線の健康影響等について、エビデンスに基づいた科学情報をわかりやすくまとめ、情報発信を進める。

(3) 環境再生に関する情報発信について

【2020年度実績】

- 2020年7月 「東日本大震災からの環境再生ポータルサイト」新規ページ作成〔図5〕。

<http://josen.env.go.jp/saisei/>

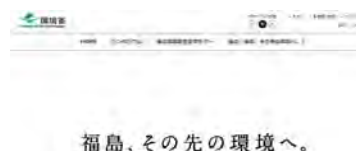
- 2021年1月 10年特設サイト「福島、その先の環境へ。」新規ページ作成〔図6〕。
<http://shiteihaiki.env.go.jp/fukushimamirai/sonosaki/>



写真1今年度の車座集会イメージ写真



図5



福島、その先の環境へ。

図6

2. 国内での取組

(4) 環境再生事業に対する理解醸成や福島における風評払拭に向けた取組

【2020年度の取組】

○風評払拭に向けた主な取組

- 2020年4,5月 県内高校生が企画した「福島桃スイーツ」をTOKYO FMの特別番組で紹介[写真2]。
※番組には小泉環境大臣も出席



写真2 企画した桃スイーツ

- 2020年7,8月 福島のキュウリで「クールビズ×キュウリビズ」SNS漫画の公開[写真3]。



写真3 キュウリビズSNS漫画

※インプレッション300万超え

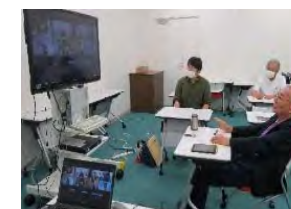


写真4 Web聞き書き活動

- 2020年6月～2021年2月 大熊町聞き書き活動の実施[写真4]。
- 2020年11月 環境再生ツーリズムの実施[写真5]。

○第2期復興・創生期間以降の次の10年に向けた取組

- 2021年3月 「福島環境再生100人の記憶」発行[図7]。
「いっしょに考える『福島、その先の環境へ。』シンポジウム」の開催[写真6]。
※シンポジウムには小泉環境大臣も出席



写真5 中間貯蔵施設見学の様子



写真6 シンポジウムの様子

(5) 旅行客の回復に向けた施策

- 2019年6月に、“みちのく潮風トレイル”の全線を開通。Web、SNS、各種イベント等において情報発信を実施。
- 牡鹿半島ビジターセンター等、三陸復興国立公園利用施設の整備を実施



図7